



東洋大学

東洋大学
優秀教育活動賞
受賞者紹介

Toyo University Award Excellent Educational Activities

2022

Toyo
University Award
Excellent Educational
Activities

優秀教育活動賞とは



東洋大学優秀教育活動賞は、2017（平成29）年度に新設された制度です。

本学で実施されている優れた教育活動（各学部の授業科目および授業に伴う教育活動）を企画実施し、学生に大きな教育効果を与えた専任教員を表彰したたえるとともに、FD活動などを通じて、優れた取り組みを全学に普及させるためにスタートしました。

この表彰制度が学内のすばらしい取り組みに光を当てるきっかけとなることが期待されます。

2022年度受賞者

氏名	所属	タイトル
中里 巧	文学部 哲学科	「応用倫理学A・B」
入谷 聡子	経済学部 経済学科	「経済学A/B (Economics A/B)」
松崎 大介 根本 祐二	経済学部 総合政策学科 経済学研究科 公民連携専攻	「政策提言」による 学生の主体的かつ実践的な研究・提言活動の促進
田中 雅敏 パウアー ラース	法学部 法律学科	2022年度法学部ドイツ研修「語学研修B」
松崎 良美	社会学部 社会学科	「社会調査入門A・B」
高橋 典史 村上 一基	社会学部 国際社会学科	「社会文化体験演習ⅠA／国際社会プロジェクト演習ⅠA3」 「社会文化体験演習ⅠB／国際社会プロジェクト演習ⅠB3」
浅田 晃佑 大高 瑞郁 尾崎 由佳 檜原 潤 北村 英哉 桐生 正幸 高 史明 戸梶 亜紀彦 橋本 剛明 山田 一成	社会学部 社会心理学科	オンライン実験を活用した先進的な心理学教育プログラム 「心理学実験演習A」「心理学実験演習B」
子島 進	国際学部 国際地域学科	「Sociology of Islam」— Muslim Life in Tokyo —
川口 英夫	生命科学部 生命科学科	「基礎化学」
伊藤 元裕	生命科学部 応用生物科学科	「生物資源科学」
佐藤 秀保	食環境科学部 食環境科学科	「情報処理基礎（食環）」 「情報処理演習（食環）」
太田 昌子	健康スポーツ科学部 栄養科学科 2022年度：食環境科学部 健康栄養学科	「基礎栄養学実験」

ご挨拶



2022年度はコロナ禍の影響を受けながらも、対面での授業を基本とし、オンライン授業で得た知見を活かした多様な教育手法を用いて授業運営に取り組む1年でした。学生の学びをより豊かにするために、さまざまな工夫を凝らした教育実践が各キャンパスで展開され、本制度にも多くの学部・研究科から優れた取り組みを申請いただきました。どのプログラムからも先生方が学生たちに真摯に向き合い、準備や試行錯誤を重ねて授業運営に取り組んでこられたことが読み取れ、受賞された先生方の熱心な姿勢に心より敬意を表し、お祝い申し上げます。これからもよりよい教育活動を展開するために、本パンフレットが道標として活用されることを期待しております。

選考委員長・学長 矢口 悦子



受賞者紹介

文学部
哲学科

教授

中里 巧



「応用倫理学A・B」



受賞授業・教育プログラム

「応用倫理学A・B」は、白山キャンパスの全学部全学科に向けて開いている基盤科目であり、毎年多くの学生が受講しています。内容は死生学が主であり、春学期は、死の定義・安楽死や尊厳死・ターミナルケアやホスピスケア・がん死・老い・臨終の葬制儀礼・死の手続きと作法・介護の諸問題・老老介護の果ての殺人など、秋学期は、死体と遺体の違い・宗教性の本質・葬祭儀礼の役割・心霊現象の事例や意味・心霊現象と家族・自殺の事例や世界観・お迎え体験・日本人の死生観・日本人のスピリチュアルケアなどをテーマにして、視聴覚も併せて用いながら、講義しています。高等教育機関の教養科目で死生学講義が行われているのは希有ではないかと思っています。

受賞者からのコメント

優秀教育活動賞を受賞することができましたこと、とてもうれしく思っています。また、長年、「応用倫理学A・B」で死生学を講義してきて、大変多くの聴講生に恵まれてきたことについても、感謝しております。人生の中で死と向き合うことは避けて通れないのですが、残念ながら学校で死生学を教えるのは、いまだに稀なことだと思っています。東洋大学では、自由に死生学を講義してきました。微力ながら、聴講してくださった多くの学生の皆さんの人生の一助となればと願って、講義を続けております。



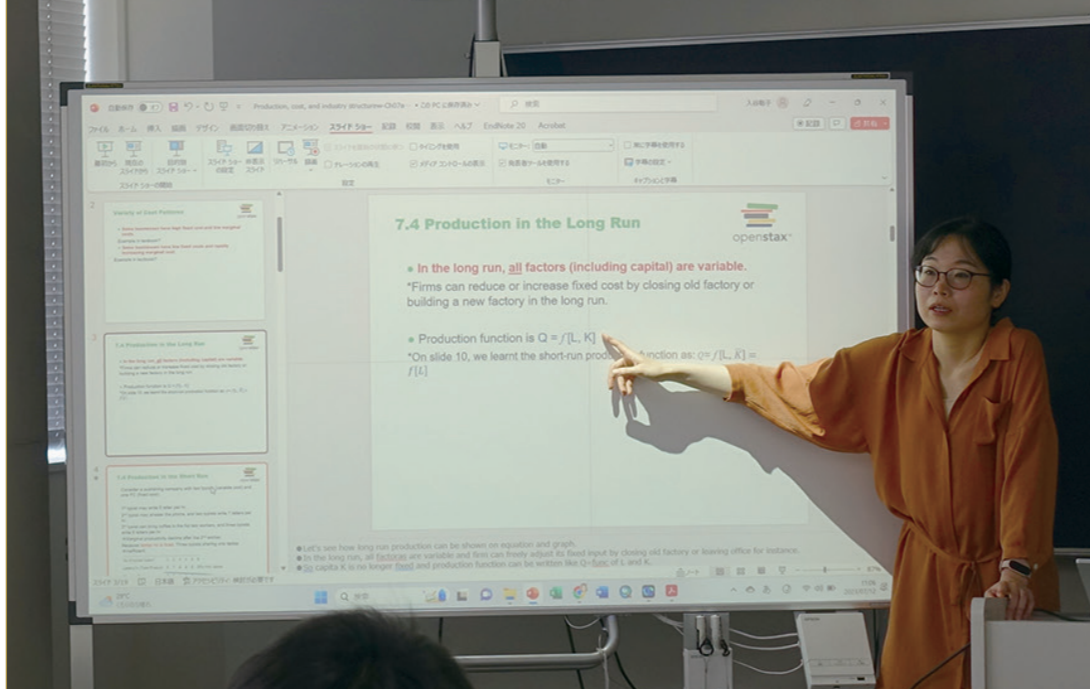


受賞者紹介

経済学部
経済学科

助教

入谷 聡子



「経済学 A/B (Economics A/B)」

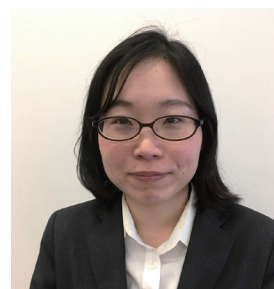


受賞授業・教育プログラム

経済学基礎は英語で開講される経済学の基礎を学ぶ授業です。この授業では、毎年、さまざまな学部所属する日本人学生と留学生が共に学んでいます。経済学を学ぶために受講する学生もいれば、英語の運用スキルを伸ばすために受講する学生もあり、それぞれがお互いの得意なところを生かして、助け合いながら授業を行っています。学生たちは身近な政策や経済統計について、自分たちなりに分析するような課題を課され、グループで発表します。留学生の出身国の政策や経済状況について、調べて発表する場も設け、異なるバックグラウンドを持つ学生同士がお互いを尊重しながら学ぶことで、より豊かな学びの経験が得られるよう心がけています。

受賞者からのコメント

このたびは栄誉ある優秀教育活動賞をいただき、心より感謝申し上げます。長らく続いたコロナウイルス感染症の蔓延により、対面授業が中止され、学生同士の交流が制限されていましたが、2022年度は、対面授業が実現し、学生同士が直接対話し、交流する機会が持てるようになりました。これにより学生たちのグループ発表への参加意欲が高まり、自らの意見や知識を発信する主体的な姿勢が増したことを実感しています。今後も、履修学生同士の交流が学びにつながるよう、学生との対話に重点を置き、精進してまいります。





受賞者紹介

経済学部

総合政策学科

松崎 大介 (教授)

経済学研究科

公民連携専攻

根本 祐二 (教授)



「政策提言」による学生の主体的かつ 実践的な研究・提言活動の促進



受賞授業・教育プログラム

国、自治体、企業におけるさまざまな政策の企画に携われる人材の育成を目指し、2012年より、科目「政策提言」(4単位)を創設した。これは、3, 4年生が3~5人のチームを作り、教員の指導を受けて、社会課題を分析し解決方法を提言するもので、制作過程で現場の視察やヒアリングを行うとともに、完成後に直接提言することが推奨されている。また、優秀チームには最終発表会に出席して、外部審査員からの客観的評価を受ける機会も提供している。

受賞者からのコメント

学生は、一般的な科目やゼミでは教員との関係で活動するのに対して、政策提言では提言先自治体などとの関係で活動する。学生を突然社会の現場に出して通用するのか不安もあったが、むしろ日頃より生き生きしている学生もいて、社会全体で学生に学びの機会を提供できていることが実感できた。実際に提言に対して意見を伺う機会を設けていただいた提言先も少なくない。わざわざ時間を割き、温かいコメントをいただいたことに、この場を借りて感謝申し上げたい。





受賞者紹介

法学部
法律学科

田中 雅敏（教授）
バウアー・ラーズ（講師）



2022年度法学部ドイツ研修「語学研修B」



受賞授業・教育プログラム

法学部が主催する語学研修として、2015年度から実施しています。ドイツ連邦共和国バイエルン州北部に位置するバイロイトで、ドイツの一般家庭にホームステイしながら、教室や時には町中を舞台にドイツ語のレッスンを受けます。法学・行政学プログラム(裁判所見学や官公庁見学、バイロイト大学法学部によるレクチャー)も組み込んであります。ドイツ語履修歴のある学生なら全学部から参加可能で、単位認定型、国際教育センターのチャレンジ型奨学金対象プログラムです。

受賞者からのコメント

このたびは、名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。現地ドイツにおける研修でドイツ語・ドイツ文化そして異文化コミュニケーションを身近に学ぶ学生とともに過ごす経験は一教員としても非常に有意義なものになっています。この研修プログラムが学生の国際性を育み、力を発揮させる機会になっていることをとてもうれしく思います。関係各位にこの場を借りてお礼申し上げます。





受賞者紹介

社会学部
社会学科

助教

松崎 良美



「社会調査入門 A・B」



受賞授業・教育プログラム

本授業は二部社会学科の必修授業で、受講者にとって、社会学を学ぶ際の“入口”に相当する授業の一つです。そのため、受講者の興味関心に関わる知見がどのような研究実践を通じて築かれてきたのか、より深く知るための知識獲得の場として、また社会調査が具体的にどう実践されるのか、概観をつかむための機会として本授業を位置づけ実践してきました。授業では、LINEのオープンチャットなどを使って、教員からの問いかけに受講者が気軽に応答できる仕組みを設けたり、毎授業の疑問や感想へのフィードバック、必要に応じて取り入れたワークショップやミニ実習によって、受講者と共に授業を作り上げていくスタイルを大切にしてきました。

受賞者からのコメント

このたびは、名誉ある賞を頂戴し大変光栄に存じます。授業では、毎回寄せられる受講者の皆さんの感想や素朴な疑問に答えていくインタラクションの機会を大切にしてきました。学生の皆さんの感想は、教員である私自身の授業に対するフィードバックでもあり、学生の皆さんの「つまずき」や「疑問」に回答する機会が、学生の皆さんと共に「社会調査」に対する理解を深めていく大切な機会になっていたように思います。学生の皆さんや学部の先生方にも支えられての受賞となりました。心から感謝申し上げます。





受賞者紹介

社会学部

国際社会学科

高橋 典史 (教授)

村上一基 (准教授)



「社会文化体験演習ⅠA」／国際社会プロジェクト演習ⅠA3」

「社会文化体験演習ⅠB」／国際社会プロジェクト演習ⅠB3」

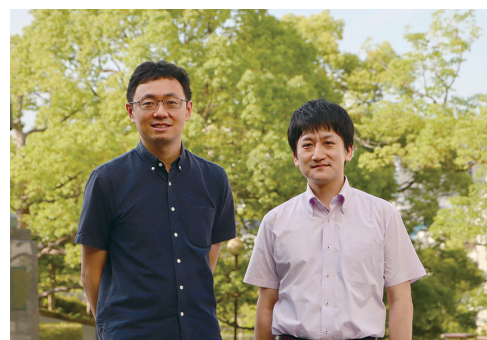


受賞授業・教育プログラム

本授業は、地域社会における多文化共生についてのプロジェクト型学習です。学生はプロジェクトを遂行するために必要な専門知識や基礎スキルを身につけた後、東京都北区内のふたつの団地で自治会などと連携した活動を行いました。また地域課題を明らかにするための社会調査を実施し、社会学的に考察しました。そして学年末に、1年間の調査・活動の結果を自治体職員や地域のアクターを招いた報告会で発表し、研究成果を社会に還元することの重要性を学びました。

受賞者からのコメント

本授業は、2年生向けの授業として、社会学の調査や知見を社会課題の解決に結びつけることを学び、地域と連携しながら、それ実践することを目指しています。わたしたちは、これらが3・4年生の専門ゼミでの研究や、その後のキャリアにも活かされることを目指しており、これからも学生のより充実した学修のためにさらなる試行錯誤をしていきたいと思っています。最後になりますが、この場を借りて、さまざまなかたちで本授業に関わっていただいた関係者の方々すべてに感謝申し上げます。





受賞者紹介

社会学部 社会心理学科

浅田 晃佑 (准教授)
大高 瑞郁 (准教授)
尾崎 由佳 (教授)
檜原 潤 (助教)
北村 英哉 (教授)
桐生 正幸 (教授)
高 史明 (准教授)
戸梶 亜紀彦 (教授)
橋本 剛明 (准教授)
山田 一成 (教授)



オンライン実験を活用した 先進的な心理学教育プログラム 「心理学実験演習A」 「心理学実験演習B」



受賞授業・教育プログラム

心理学実験演習A/Bは、心理学実験を通じてデータサイエンスを実践的に学ぶ科目であり、学科のカリキュラムにおいて中心的に位置づけられています。教育用ソフトウェア Psychexp for Education の導入でDX化が進み、効果的・効率的な授業運営ができるようになりました。たとえば、教員が作成した実験を、学生たちはスマートフォンから体験できます。また、学生たち自身が編集したオリジナルな実験を実施することもできます。このように、学生たちの自由な発想を活かした、主体的な学びの場を提供しています。

受賞者からのコメント

栄誉ある賞をいただき、喜ばしく思います。いくつもの実験を実施し、そのたびにレポートを提出するというハードスケジュールの中で、学生たちが受け身にならず、自ら考えることを促す授業のしくみづくりに心を砕きました。学期末の授業アンケートで「毎回の実験が興味深く、自分たちで考えた実験で結果が出るとうれしかった」などの感想が得られたことは、その成果と言えるのではないかと思います。今後も一層充実した教育を提供できるよう努めます。





受賞者紹介

国際学部
国際地域学科

教授
子島 進



「Sociology of Islam」 — Muslim Life in Tokyo —



受賞授業・教育プログラム

本講義は英語による専門科目である。日本イスラーム文化センター（大塚モスク）の寄付講座として開講している。

子島による在日ムスリム・コミュニティの概説と、東京で暮らすムスリムの生活経験（モスクの創設、ハラール食の確保、労働、結婚と家庭の形成など）を組み合わせている点が特色である。講師は、同センターからの紹介を受け、在日10～30年で多様な地域出身者が登壇できるよう配慮した（インド、インドネシア、シリア、パキスタン）。

受賞者からのコメント

日本が急激に多文化社会となっていく中、異なる宗教・文化的背景を持つ人々と積極的に交流していくことが、若い世代には求められています。東洋大生が、イスラームの基礎的知識を身につけながら、ムスリムとの交流機会を得られるよう、本講義は構想しました。それはまた、寄付講座の開講を申し出た大塚モスクのみなさんの願いでもあります。学びと交流を積極的に組み合わせた点が評価されての受賞となったことを、うれしく思います。



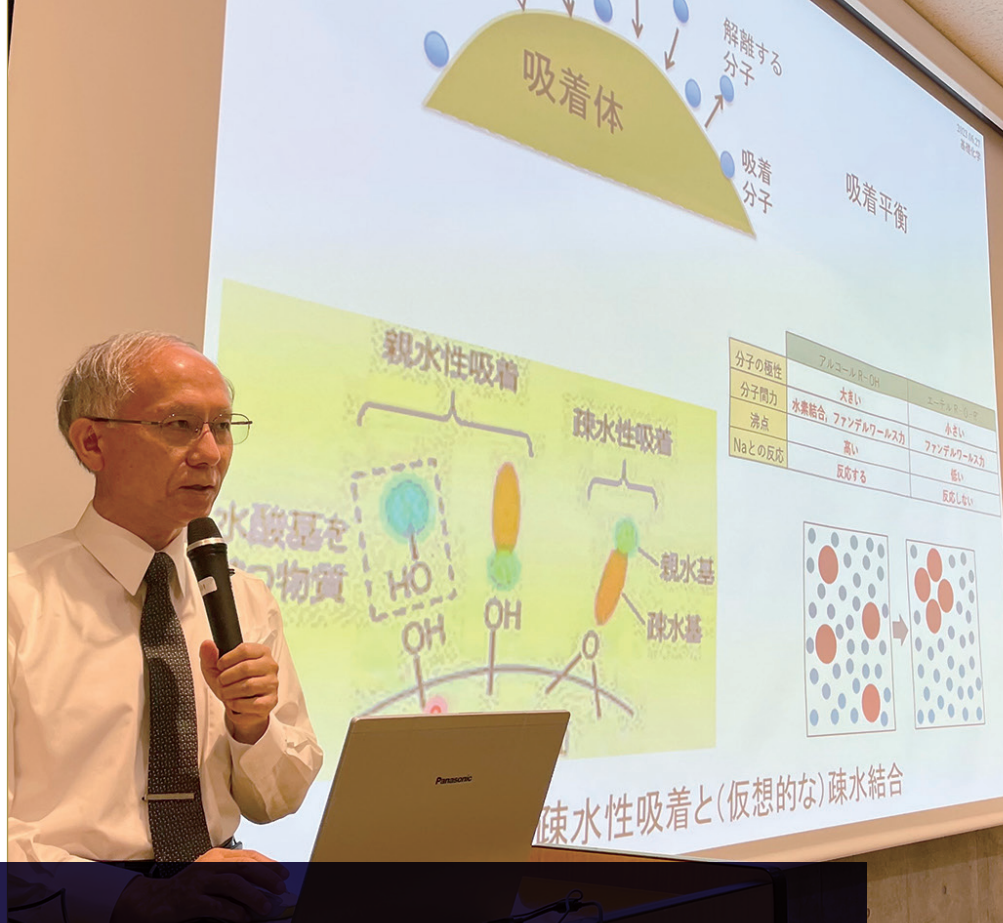


受賞者紹介

生命科学部
生命科学科

教授

川口 英夫



「基礎化学」



受賞授業・教育プログラム

『生物が好きで進学したのに、化学の授業が多い』という不満を時々耳にします。そこで、1年春学期の初回授業で、大手化学会社の製品開発に関する映像資料を見せます。生物関連の製品の根底には化学的な技術開発があるという実例を目の当たりにし、生物の理解と応用には化学の知識が不可欠であることが分かったという感想が多く寄せられました。『化学と生物の関係』を身近な具体例で説明し、『腑に落ちる』ように理解することを目指しています。

受賞者からのコメント

本賞をいただき、大変光栄です。本授業は、高校で化学を全く学習していない人から化学で入試を受けた人まで、多様な学生が対象です。そのためか、授業アンケートは賛否両論で様々なコメントがあります。『分かりやすい』とは何か悩みつつ、皆様に評価していただいたことが日々工夫を重ねるモチベーションになります。アハ体験のような腑に落ちる経験が探究心につながり、多くの技術者・研究者が育つ出発点になることを願っています。





受賞者紹介

生命科学部
応用生物科学科

准教授

伊藤 元裕



「生物資源科学」



受賞授業・教育プログラム

生物資源科学は、生命科学部の専門教育科目の選択科目です。本講義は、本学部全ての専門分野に通ずる「資源」の「持続可能性」をキーワードとして据え、本学においてあまり学ぶ機会のない水産学・海洋学から農学の基礎と応用まで幅広く理解を深めることを目的として構成しています。その中で、着任時よりSDGs教育を講義の柱の一つとしても力を入れてきていました。資源について身近な生活に関わる現象や世界的な諸問題を話題の出発点として紹介するとともに、自身の専門である海洋生物学、動物生態学について、野外フィールドで得た体験や最新の研究成果を多く取り入れながら総合的に「生物資源科学」について理解、思考できる講義を心がけています。

受賞者からのコメント

このたびの受賞を大変光栄に思います。1年次の学生を中心に、生命科学を志す学生の基礎として資源について多面的に知ってもらい考えてもらうことを念頭に、可能な限り最新の実例や自分の研究、経験を取り入れた講義を構成してきました。学生からの声として、講義を通して新しい発見が得られた、面白かったという感想が多少なりとも得られていることをうれしく、ありがたく思っています。さらに工夫を加え、今後も講義を改善していきたいと考えています。



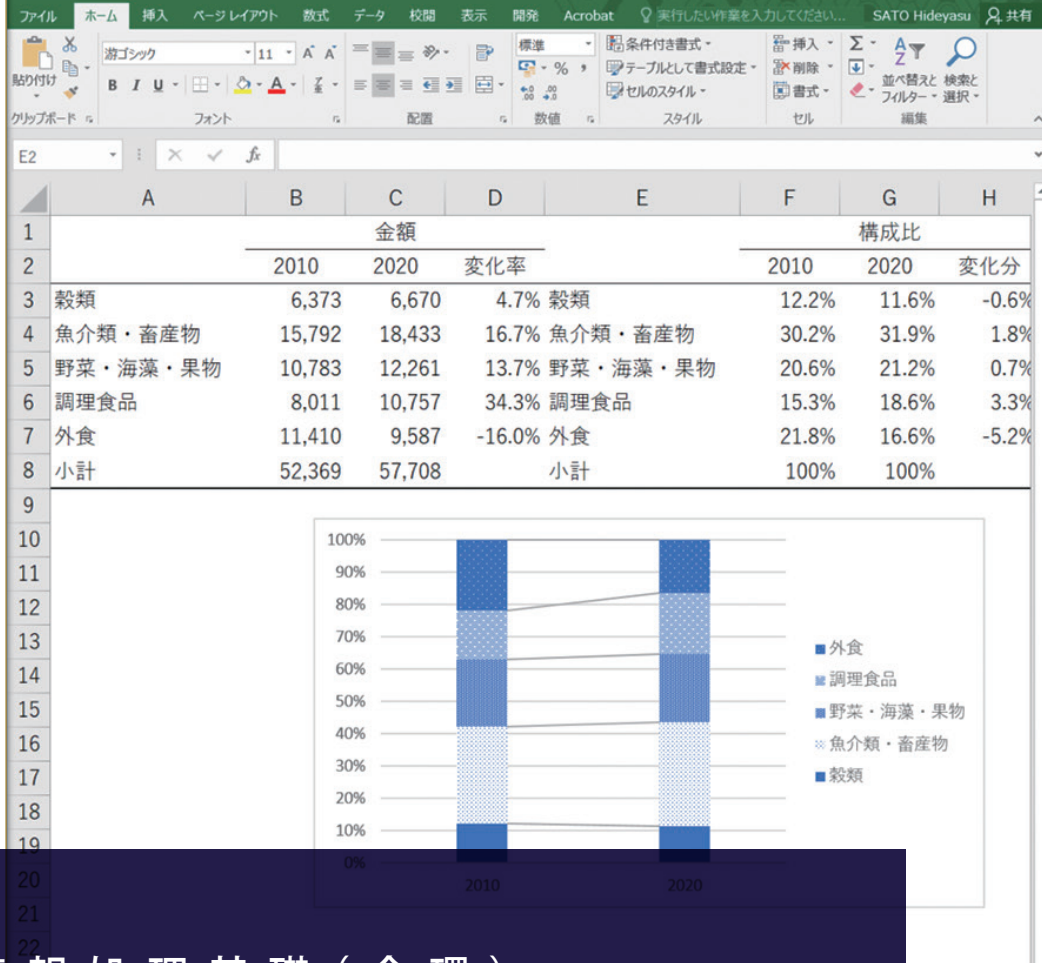


受賞者紹介

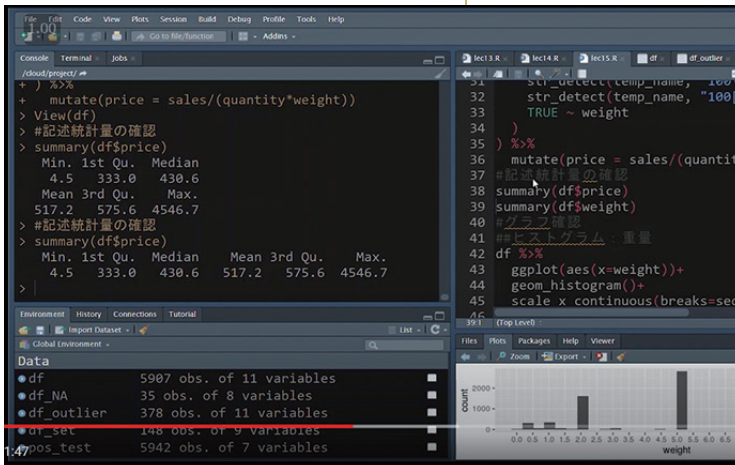
食環境科学部
食環境科学科

准教授

佐藤 秀保



「情報処理基礎（食環）」
「情報処理演習（食環）」



受賞授業・教育プログラム

「情報処理基礎」では文書作成、表計算、およびプレゼンテーション資料作成ソフトの効果的な利用方法を、「情報処理演習」ではプログラミングの基礎を学習します。どちらの授業でも、実際の政府統計データや仮想的な店舗売上データを用いてデータの加工・可視化・分析・取りまとめを行うことで、データサイエンスの基礎力の修得に努めています。

受賞者からのコメント

「情報処理基礎」「情報処理演習」ともにオンデマンド型授業として開講されています。オンデマンド型授業は、受講者が時間や場所を選ばず学習できるという大きな利点がありますが、一方で効果的な学習コンテンツの作成に多くの労力を要します。そのような効果的な学習環境づくりに対する努力や工夫をこのような形で評価してくださり、大変うれしく思います。このたびの受賞を励みに、今後もより一層精進する所存です。





受賞者紹介

健康スポーツ科学部 栄養科学科

2022年度：食環境科学部
健康栄養学科

准教授

太田 昌子



「基礎栄養学実験」



受賞授業・教育プログラム

本実験の学修到達目標は三つの法に包括される。一つは、栄養士および管理栄養士養成科目であるため、栄養士法に記載されている「栄養とは何か、その意義を理解すること」である。次に、検量線作成や試薬調製があるため、国際基準であるHACCPやISOに則った実技手法を習得することである。最後に、「諸学の基礎は哲学にあり」に基いた知徳兼全を実践するために原理を理解することである。実際は、実験映像（企業の教材映像やYouTubeなど）を事前に紹介し、自ら実験後に、原理や手技、国際基準を説明した。実験操作は必ず2回行い、技術の習得に心がけ、レポートを課した。

受賞者からのコメント

このたびは、ご推薦くださいました健康栄養学科をはじめ食環境科学部の皆様に厚くお礼申し上げます。基礎栄養学は大学入学後初の科学実験です。最初はおぼつかない手つきであった実験操作も、終盤には迅速に正確に行えるようになっていく過程を見ながら教員としてやりがいを感じていました。学生がこの経験を礎に、より専門的な技術や経験を積み、人生の糧になることを願っています。今後も、学生の教育活動により一層邁進する所存です。



